

第1報「意識のタイプ分け」第2報「回数・時刻・順番」にひきつづき、本報では「その他の入浴関連行為」について報告する。

目的 シャワー、朝グロ、銭湯、残り湯などについて、年代別、続き柄別による奥徳の差や、志向の差を明らかにし、これからの入浴行為の方向を探ることである。

方法 奈良旧市内で、聴きとり調査およびアンケート調査をおこなった。世帯票と個人票にわけて、中学生以上を対象にした。

結果 ①シャワーの要望や、洋風入浴方式(湯ぶねで体を洗う)を希望するものは、年代の若いほど多くなる傾向がある。シャワーの要望は、聴きとり調査でもよくきかれ、「シャワーがあると洗濯に便利」であり、「夏はシャワーだけですましてもいい」と答えた人は40%前後あった。

② 朝グロ志向は、天40代に多い。

③ 「内グロは便利でよい」という内グロ派が圧倒的に多い。銭湯のよさは「気分転換になる」「広々している」「冬はよく暖まる」などである。

④ 残り湯は、妻や祖母は何かにつかわないともったいないと考え、洗濯や、植木の水やりに使われている。

⑤ 夫、老人は、入浴時間は短くカラスの行水が多い。夏季の入浴方法は「時間は短く、回数は多く」という傾向が定着してくるのではないかとおもわれる。